

令和7年10月2日

◆鈴木ひでし委員

私からは、さっきからお聞きしていて私も気になっていることで、一、二聞かせてください。

このまち・ひと・しごと総合戦略って誰に向けたものなんですか。

◎地域政策課長

まず、この戦略なんですけれども、まずは国で定められておりますので、つくらなければならない、努めなければならないとされております。つくったことで、まず県の中の事業部局との整理が進んでまいります。

もう一つは、県民の皆様への、または多様な主体の方に対する県の考え方をお示しすることになると考えております。

◆鈴木ひでし委員

今のその言葉を借りれば、ここにいる議員の1人の方が先ほど、これどういう意味なんですかと聞いて、あなた、ずっとしゃべったよね、1分ちよつとぐらい、それをここに書けばいいじゃん。分かんないよ、突然、目次が出て、中柱、小柱がああだこうだと書いてあるけれども、これ分かんないよ、我々だって。俺、総務政策じゃないから、これを配られたって多分半分も読まないで置いておくと思うよ。まず、これをしっかり書きなさいよ、今あなたの言ったこと。これ一つ。

二つ目は、国だってこの調査を、この総合戦略をやった上で、きちっと一度検証しているんだよ。検証してそれを載せているんだよ。この中になんもないじゃん。何でこの地方創生の人たちの評価で、これが終わらなきゃいけないの。県民に送るんだろう。そうであるならば、この中にあるきちっとした今までの総括というのをもまた載る、それでこうなったというのが筋だろう。二つ目。

これをまずあなたに言っておきたいと思うんだよ。どうですか。

◎地域政策課長

今、お二つ頂いたと思っております。

一つ目は、書くというところについては検討させていただきたいと思います。これがどういうものに基づいたものか。

それともう一つにつきましては、すみません、もう一度おっしゃっていただいで、よろしいでしょうか。

◆鈴木ひでし委員

この中でもって検証を国もしているんだから、地方創生の委員だけじゃなくて、あなた方の検証がこの中になければおかしいわけだろう。それをまとめて、あなた方の言葉で書けと言っているんだよ、検証として。

同時に、私がすごくここで心配しているのは、地方創生の委員の方ってどなたなのかもここに載っていないじゃない。これっておかしな話じゃないの。ひょつ

としたら、失礼ですけれども、何でだか知らないけれども、10名と書いてあって、実際には4名だったとかということがあるかもしれないじゃない。それぞれ誰の意見なのかとは言わないけれども、今言ったそういう検証、あなた方の検証をどうするんだ。

もう一つは、地方創生の方はどういう方がいらして、そして、どういう経歴の方がセレクトしたのか。こんな、だっておかしいでしょう、そもそも一番最初の中に。これをだからあなた方に指摘しておきたいんだよ。これひとつお願いします。

その中で二つ目は、先ほどあなたとの中で、論議聞いていたら、KGIって出たよね。だって、KGIなんていうのは今まで出てきたかね。これ、KGIなんてもとからあるんだったら、もっと、こんな申し訳ないけれども、私から端からやったら何時間かけてでもこれ質疑できるよ。何なのかというとKPIしか載っていないからだよ。何でこのKPIなのかということは書いていないんだよ。今日これからやるけれどもさ。何でこのKPIが一つだけ載っかっているんだと。当然KGIがあるはずだよ。Key Goal Indicatorだけか。これじゃKPIは、Key Performanceだから。パフォーマンスがどうのこうのじゃなくて、ゴールはどこで、そのパフォーマンスがどうだというなら分かるけれども、ゴールがないんだもん、だってこれ、KGIが。いや、あることある。当然、質問されたから出たんだろうけれども、KGIなんてことを平気でもって出すから、それだったら出せよ、ここのところにKGI、これから全部。大変だよ、きっとこれからKGIを出したら。KGIがあって、ゴールがあって、ツリーのようになって行って、その中にKPIがあるんだから。私は前から言っているんだよ、政策の人たちに、これを出さなきゃおかしいだろうって。そういうものがないから、いつまでたっても、ロボットにしたって何にしたって、何しているのか分かんないんだよ、これから質問するけれどもさ。何回も何回も、この委員会でも、多額のお金をかけて、こういうふうに質問して、あと同じ質問するんだよ、またこれから。

どうか、一つのKGIということについても、一つ、きちっとした形でもって、何らかの結果を見せてくださいよ。

◎地域政策課長

すみません、私の答弁が、先ほど不明確な部分があったかと思います。

こちらのつくったもの、今委員に御覧いただいていると思うんですが、例えばなんです、お手数ですが、47ページというところがございまして、KPIと同じような形で記載されておりますけれども、よくよく上のほう見ていただきますと、数値目標というものがございまして、で、一旦は、これをKGIと呼ぶかどうかは別にしまして、こういったものを目標の一つ据えているというところでございます。

KPIとこの数値目標、何が違うのかと、先ほども答弁させていただいたんですが、この数値目標につきましては、多様な主体、県を含めた多様な主体で成し遂げていきたいというところの数値目標です。KPIにつきましては、基本的には、県の努力によってどこまでできるかというようなものを示した値というふ

うに考えてございます。

◆鈴木ひでし委員

質疑であなたが言ったの、私分かりました。

だけど、逆に、いろいろな主体って何をするのよ、ここに書いてあるものが全てなんでしょう。だってKGIといったって、ここの例えば、目標というのは実績でもって希望出生率の実現というのはゴールであるならば、もっと多様なものがいっぱい出てきていいはずじゃない。できないんだから、それじゃなきゃ。それは書いていないで、何で一つか二つしかKPIがないのかということを私はさっきから言っているんだ。

だから、KGIならKGIときちっとしなさいよ、そこのところ。そうしないと論議がこういうところでもって、時間もない中でもって、どうも5分たっちゃったよと。

こういうような形でもって、あなたのところじゃなくて、各部署きちっとそういうようなことまとめて、KGIなり何なりきちっとして、こういうものの中のKPIなんだというのをきちっと出しなさいよ。

◎自治振興部長

委員から御指摘ございましたKGIを数値目標、それからKPIといったまず言葉の使い分けというのがありますけれども、まず、また総合戦略、また定期的に見直す期間ございますので、また先ほど吉川委員からもお話ございましたけれども、総合計画とのやり方の見直しと、そういったところもございまして、そういった中で、KGIとそれから数値目標、KPI、こうしたものの扱いについて検討していきたいと、このように考えております。

◆鈴木ひでし委員

ぜひともお願いしますよ。本当に煩わしいという、このKPIがどうのこうのって出ているけれども、全然実態はどうなんだという中にあると思うので、お願いしたいと思います。

私は最初、15ページの成長産業の云々かんぬんというところでちょっとお聞きしたいんだけど、まず、2番目、県の支援を受けて、県内に集積する最先端医療関係のベンチャー企業数とあるけれども、そもそもがこの未病産業なんかの創出とか最先端、KPIを設定しているけれども、県の支援を受けてと書いてあるけれども、どのような、県が支援をしたの。

◎国際戦略ライフイノベーション担当課長

例えばですけども、神奈川県の方では殿町地区にライフイノベーションセンターというものを整備しております、その入居企業ですとか、もしくはRINKといったネットワークがございまして、そちらで加入をしていただいて情報提供などの支援をさせていただいている企業というふうにしております。

定義といたしましては、県が主導するネットワークや県のイノベーションの

拠点間での連携などに関わり、県内に立地または県内で活動を行うベンチャー企業の件数を対象としております。

◆鈴木ひでし委員

対象じゃなくて、どういう支援をしたのかと聞いているんだよ。

◎国際戦略ライフイノベーション担当課長

例えばですけれども、ライフイノベーションセンターは、県が土地を購入しまして、民間企業に建物を建てていただきました。そういったところから、周辺の企業、殿町地区の建物よりも賃料が少し安くなっているといったところがございまして、そういったところでの賃料負担の軽減といいますか、そういったところですか、あと情報提供ですか、そういったところを支援と呼んでおります。

◆鈴木ひでし委員

案の定だよ。支援じゃないじゃん、別に。それは言葉では支援だけれども、具体の中にいったら、別に賃料が安いところでなるべくインフラが整っているところに来てもらったということを支援と言っていると課長さんはおっしゃったんだよな、きっと。

私は、このK P Iについてつくづく思ったのは、こんなのいっぱいあるんだよ、きっと、この中に、K P Iというのは。私、そういうのを見ていて、逆に課長さんにお聞きするけれども、このK P Iをこうやってやったけれども、この県の支援は直接の結果に結びついて、どうのこうのというふうになったというのが本来の支援じゃないですか、私はそう考えているんですよ。

例えば、この中にあるけれども、これは、万が一この県の支援がなかったら、出てきているこの数字というのは、70社足す93社で150だというのは、要するになかったということなのかね。要するに、賃料とかなんとかが安くなって、それなりのインフラというのはそういうようなものじゃなかったとしたら、あくまでもここに来ることによって来たというようなことが、要するにこれだけの集積したベンチャー企業のものになったんだよという捉え方でいいの。

私が、何が言いたいのかというと、賃料が安くて来ました。ただ、そのところは勝手にベンチャーの方たちがいろんなことやっているか私は分かりませんが、それをやっているんですよ、その数が103だとか104だとかに来ていたんだよという捉え方でいいのかしら。

◎国際戦略ライフイノベーション担当課長

委員が今おっしゃっていただいたところだと思います。L I Cへの入居ですか、情報提供しています。

◆鈴木ひでし委員

これ、質問する気なくなっちゃったんだけど、それだったら逆にこのK P Iの設定をしていただいたこの企業というのは、実際に収益って上げていらっ

しゃるの。

◎国際戦略ライフイノベーション担当課長

各企業における収益につきましては、上場企業でしたら公表義務がございます。ただ、ベンチャーですとか上場していない企業につきましては、公表義務というものはないと、私すみません、認識しております。

そういった中で、申し訳ございませんが、そういった売上高ですとかといったところは、私のほうでは把握をしておりません。

◆鈴木ひでし委員

私がすごく心配しているのは、こういうK P I の出し方をされていて、やれこんな未病産業だ、最先端医療産業の創出・育成だなんて大見出しで書いてあるけれども、内実は別に、少し安くてインフラがよかったから来たというんだったら、何のために税金が使われて、これだけのものまで書かなきゃならないのかという、私は本当に現場を、今の税を払っていらっしゃる方々の重税感というのはすごく重くて、これ本当にこんなことやっているのと、しっぺ返し来ますよ、これ。

私はこの中で、いいです、そこでもって怒ったということです。

同時に、その下にあるけれども、県の支援を受けて開発された医薬品とか再生医療等々の届出件数と書いてありますけれども、実際に薬事申請の届出をK P I としているけれども、承認された数ってどれぐらいなんですか。

◎国際戦略ライフイノベーション担当課長

そちらの32件のうち、承認件数は11件となっております。

◆鈴木ひでし委員

私は、こういうのを一つ一つ見てみても、やっぱりその成果が見えない、何をしているんだという中で、こういうのをやりましたよと、先ほどどこかの会派の方もおっしゃったけれども、一体K P I というものは、何に基づいてそれが出ている、これはもうK P I 自体だって、つくり方そのものの自体だって、これパフォーマンスはどうなっているのかも、クオリティが怪しいですよ、これ見たって、私から言わせてみればね。

だから、今言ったように、例えばそういうベンチャーの中でも本当にそれが育って、それで逆に出ていくようなものは何件あったのかとかというようなものは、本来捉えなきゃならない成果じゃないですか、私はそう思うんです。

それがここから見えないというふうに、大変私は失望していますので、それを一言、言っておきたいと思います。

続いて、毎回私が言っているロボットさん。この下に書いてあるけれども、県のロボットの上に、私すごく違和感あるけれども、ロボット実装促進センターなんて言わないで、いっそのことロボット社会実装促進センターと言ったらもっと分かりやすいよね。実装なんてまた書いているから、いつまでたつたって成果が出ないんだ、私から言わせればね。

それはいいとして、そもそも生活支援ロボットに関する特区の取組に参加す

る県内企業の件数にK P Iをした理由というのは何ですか。

◎産業振興課長

委員御指摘のとおり、特区の取組、今3期目に入っておりますけれども、2期までの取組の中で、中小企業がなかなか規格から製品化までなかなか一貫して中小企業単体でできないという状況がある一方で、県内には様々工業技術の関係でロボットの部品の製造が可能な高い技術を持った中小企業が多数いるということは私ども認識しているところでございまして、そういうところの中で3期を取り組むときに一つの重点的な目標として、中小企業のロボット産業への参入支援、これを位置づけております。その位置づけているものを数量化する意味で、このK P Iを設定している、そういう状況でございます。

◆鈴木ひでし委員

参加支援ってどういう意味。だって、今あなた、それなりにかなり進んでいるロボット産業があると言ったじゃないですか。そうしたら、ここに呼ぶ必要なんてないよね、勝手に自ら起こしてやっているわけだから。ここに出てきている、参加するという人の件数というのは何を指しているの。

言っている意味分かりますか。ロボットというようなものについても、それなりの技術を持ってやっている中小企業等々も今あると、あなたおっしゃっていたよね。それ以外のロボットに関係ない、またはロボットの例えば、クオリティという言い方いけないんだ、ロボットそのもの自体の技術というのを持ってらっしゃらない方がこの中のどれくらい参加して、あなた方が指導したわけですか。

◎産業振興課長

すみません、今の私のお答えがちょっと不正確だったかしれませんけれども、もともと潜在的にそういう高い技術を持っている企業さんがいらっしゃって、そういう方々をロボットの製造とか、そういう実装の促進に携わっていただきたいと、そういう趣旨ですね、参入を促している、そういう趣旨でございます。

◆鈴木ひでし委員

だから、参入を促しているとおっしゃるけれども、そもそも具体的にこういうターゲットになっているのはどれくらいで、その中でもって、たかだか90社だ130社だというようなところに持っていく。

片や、いろいろ例えば、知事の本会議なんかの答弁聞いていると、ロボット教室をやってみたりとか、要は、そもそもが県として、ロボット産業そのもの自体というのを最終目標って何なんですか。何をしたいの。

だって産業ロボットだってあるよ、これから大変な時代が来ますよ、産業ロボットだって。今ここに持ってきているけれども、チャイナ・ウオッチという新聞なんかも、調理とあと、テレビでもやったけれども、サッカーとかなんとかやるロボットなんかも出てきて、二本足走行なんてまだ20年先だと私思っていたのが、もうそこに来ている。片や、介護ロボットだと。何をしたいの。ロボットの

最終目標って何なんだよ、これ、おたくの。

◎産業振興課長

さがみロボット産業特区の取組につきましては、もう13年来やってきているところでございますけれども、県の施策としましては、県民の皆様の生活に即した中で、産業用ロボットは基本的には範疇としてございませんで、産業ロボット以外の生活支援ロボット全般、その実装促進、そういう形でございます。それを大きな目標としてございます。

◆鈴木ひでし委員

実装なんて、あなた今言った、介護ロボットのお話しされたけれども、もう既に、例えば、アザラシ型のロボットだなんてもう、輸出されているんだよ。それを今さらこのところで、別にあなた方がやらなくたって必要な人は買っているよ。私の友人なんかだって、みんな両親に買っているよ、ロボット。何がしたいんだと、あなた方に、これ一体。私は今後も追及していくけれども、私の中でちょっと気にかかったのは、下から6行目にこの文章の中にある、マッチングイベント回数3回ってあるじゃない。マッチング3回実施しているというけれども、マッチングの成功率ってどれぐらいあったの。どれぐらいあって、どれぐらいの成功率だったんですか。

◎産業振興課長

様々な取組、なかなか企業の皆様とあとはそれを必要としているロボットを使う潜在的な皆様、そういうのを引き合わせる、マッチングするということは、その成功率というのはなかなか数値化というのは難しいんですけども、このイベント参加につきましては、マッチングを、この3回で33件マッチングをやっている状況でございます。

そういうことを積み重ねる中で、ロボットの促進につなげていきたいというふうに考えております。

◆鈴木ひでし委員

受注マッチングってどういう意味の受注マッチングのことを言っているの。

◎産業振興課長

いろんなその場で、企業の皆様と、あとはそれを使うそのユーザーの皆様、そういうのをを使う、ロボットを活用するという立場の皆様を引き合わせることで、それを導入促進する、そういうものでございます。

◆鈴木ひでし委員

もういいや、常任委員会じゃないから。

後で言うておくよ。先日面白いなと思ったのは、テスラという会社があるじゃない。あそこがオプティマスというロボットを作ったんだってさ。これというのは、実質的にAIの範疇を超えて、要するに、AIというのは生成AIとか何と

かって、だから空間が一つあるけれども、これ具体的にロボットになると、今度ロボットを作り始めたというんですよ。ニューヨークタイムスによると、これを10年後に10億体作ると言うんですよ。完璧に、要するにAIの取り込んだ、そこは違ったソフトをつくって、ハードの中に入れるみたいですよ。

申し訳ないですけども、13年で幾ら使ったのかな。大変なお金使って、やっています、いっそのこと、申し訳ないけれども、何か結果が出ないものをどんどんやめたら。お金もいっぱいあるけれどもさ、これから決算でやるけれども。

私見ていてね、よく本当に黙ってこうやって、やっていたらしゃるなど私なんか逆に思って、本当、県民の皆様とか、やっぱり、県民の皆様一人一人、必要なのはちゃんと買われますよ。買われますし、今介護ロボットといっても、もっとすごい時代がやっぱり来ていて、導入したところはどんどん、もっとコンパクトになった、例えば尿が出る前のところから、もうそのインジゲーターをちゃんと購入してやるようなところもどんどん出始めている中で、介護ロボットなんて今頃言っている、どこにそんなことやっているんだろうと、私は実態を本当にお聞きしたいというふうに思います。すみません、長くなりました。ちょうど時間に終わりました。